

【生薬名】 桃仁 *PERSICAE SEMEN*

【起源植物】 モモ *Prunus persica*
ノモモ *P. persica* var. *dauriana*



【科名】 バラ科Rosaceae

【別名】 桃仁核・桃人

【薬用部分】 成熟した種子の中の仁

【主成分】 アミグダリン、エムルシン、脂肪油

【薬性】 気味は苦甘平、帰経は心肝大腸に属す

【効能】 ●破血祛瘀・潤燥滑腸

●肝経血分の薬で行血、祛瘀の常用薬である

●血瘀が積滞して経閉した時、打撲傷による鬱結の疼痛、産後瘀血が停滞してしこりのある痛み、その他血行不順による関節痛など、桃仁の主治の証である

●瘀血・血閉・癥瘕・邪気を主治し、小虫を殺す

●血結・血秘・血燥を治し、大便を痛潤し、畜血を破る

●血滞・風痺・骨蒸・肝癰寒熱・鬼注疼痛、産後の血病に主効あり

●便秘に白桃花を煎服する

●産前産後、血の道、生理不順に1日3～5gを煎服する

【出典】 ●桃核。味苦平。生川谷。治瘀血血閉癥。邪氣。殺小蟲。桃華。殺注惡鬼。令人好色。桃梟※。殺百鬼精物。桃毛。下血癥。寒熱積聚。無子。桃蠹。殺鬼。辟不祥。(神農本草經下品)

●能く大腸を潤し、経を通じ、瘀を破り、血癥嘗るに堪う。(薬性歌)

●主治瘀血少腹満痛、故兼治腸癰、及婦人経水不利。(薬徴)

【備考】 ●民間では吐瀉して腹痛ある時、桃の葉の搾り汁を白桃で飲む

●腫れ物に桃仁をすり酢で溶いて付ける、桃の葉絞り汁を付ける

●あせもに桃の葉を風呂に入れて沐浴する

【処方例】 ●桃核承気湯、桂枝茯苓丸、疎経活血湯